

第2回小郡市幼児施設審議会議事録

日 時	令和7年1月30日(木) 14:00~16:15
場 所	小郡市総合保健福祉センターあすてらす 2階 視聴覚室
出席者	<p><委員></p> <p>会長：脇田委員、副会長：和田委員</p> <p>委員：山下委員、大淵委員、酒村委員、梶原委員、秋本委員、中川委員、林委員、組坂委員(欠席)</p> <p><事務局職員>今井子ども・健康部長、成富保育所・幼稚園課長、鹿毛保育支援係長、大石三国保育所長、中原御原保育所長、内田大崎保育所長、神代子ども家庭支援課長、山口子ども家庭支援課長補佐、鹿子島子ども家庭支援係企画主査、荒木子ども家庭係員</p> <p><傍聴者> 3名</p>
資 料	<p>第2回小郡市幼児施設審議会会議次第</p> <p>人口減少と少子化における「二つの視点」について(若干の課題整理)</p> <p>資料1. 市内子育て支援センター一覧</p> <p>資料2. 認定子ども園・幼稚園・保育園の違いについて</p> <p>資料3. 小郡市巡回支援専門員整備事業について、小郡幼稚園発達巡回相談事業について</p> <p>ペアレント・プログラム講座</p> <p>「ペアレント・プログラム」in 小郡幼稚園</p> <p>子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律、子ども誰でも通園制度の概要</p> <p>資料4. 保育士不足対策について</p>
会議内容	
1	開会あいさつ
2	事務局からの若干の課題整理 事務局より説明
3	<p>審議</p> <p>(1) 発達巡回相談事業について</p> <p>資料3により事務局より説明</p> <p>《委員》巡回支援専門員はどんな職種で、どこに繋ぐのか。</p> <p>《事務局》児童発達支援事業所の作業療法士に巡回で現場を見ていただき、その後、支援が必要な場合に発達支援事業所等に繋ぐために受給者証の手続きや、こぐま学園等の専門機関への繋ぎを行っています。</p> <p>《委員》小郡市は巡回支援専門員整備事業を行っているので良い。保育士の困り感の軽減に繋がっていると思う。他市は行っていないところもある。</p> <p>《委員》園の職員は保育士や幼稚園教諭の免許しか持っていないので、困った時に作業療法士の</p>

違う視点から教えていただいている。こどものかかわり方で困っていたことが解消され笑顔で保育できるようになったので本当にいい事業だと思う。

《委員》医療的ケア児の受入れはどのようになっているか。保護者支援は心理士の配置をしてもよいのではないか。

《事務局》医療的ケア児の受入れは令和5年度まで行っていましたが、令和6年度は在園児はいらっしゃいません。

令和6年度より、「こどもの発達相談」を開始し心理士による相談を受けている。ニーズは高いです。

《委員》ペアレント・プログラム講座にこぐま学園の先生を講師に迎えてということだが、小郡幼稚園の中にトレーニングを修了して、資格を持ってる方がいるのではないかと思うが。

《事務局》現在小郡幼稚園での有資格者は1名です。現在はこぐま学園にご支援をいただいています。今後、自園の中で体制を整えて参ります。

《委員》こどもの発語が遅い、走るが遅い、起き上がるが遅かった等、何かあると気になる。相談機関に繋がるまでの心の疲れがあるのでは。産後うつ、共働き増加、女性の方が負担が増えていると思う。相談機関に繋がるまでに時間がかかる。心のケアがあると子どもを産みたいと思うのでは。

《事務局》相談窓口を市のこども家庭支援センターに設けています。そこに相談に行くまではハードルが高かったり、躊躇されることもあるとは思いますが。健診や、保育所・幼稚園等、いろんな機会を捉えて相談窓口の周知を広く行っていきます。子育てに関する相談は保健師、保育士等、様々な相談を受ける体制を整えています。

《委員》巡回支援専門員整備事業のように園からの依頼があった時だけ気になる子の相談を受けるのか。

《事務局》それ以外にも乳幼児健診や子育て支援センター等、色んな所から気になる子の相談を受けています。

《委員》小郡幼稚園の発達巡回相談事業はこぐま福祉会の経験豊富な保育士、心理士が出向いている。集団の中でこどもの様子を見たり保護者支援も行っている。

《委員》「安心して子育てできるまち」を挙げているのであれば、自分から出向くのはハードルが高いので、巡回等を活用して行政が足を運んで支援する方向でなければ保護者は抱え込んでしまい、窓口がいくらあっても繋がらないと思う。

(2) 保育士不足対策について

資料4により事務局より説明

《委員》1. 新規保育士の確保対策の(目的)魅力的な保育実習とは

《事務局》保育実習後に保育士を諦める方が多い理由として保育記録等の事務作業に時間を

多く費やすことが挙げられます。それを踏まえて ICT 化を進めることにより、事務作業の時間が短縮され、こどもと関わる時間が確保でき、魅力的な保育に繋がると考えます。

《委員》キャリアアップ研修といって、中堅保育士などを対象に後輩に指導助言できるようなマネジメント研修が今後重要で、主任保育士ではなく、ミドルリーダー育成に繋げて、共同し、実習生を支えていくことが必要でないか。

《事務局》次年度の保育協会の課題整理をする中で、同様の意見をいただいている。今後は、保育実習のあり方を見直していきます。

《委員》保育実習とは、私たちが現場を知ることがスタートライン。現場で無駄だと思えることは、しなくていいと思う。今の社会にあった保育をしていくことが重要。

《委員》ICT はメリットが多いと思う。漢字が苦手な若手職員にもあっていると思う。ICT によって仕事の持ち帰りがずいぶん減ったように感じる。

《委員》市内勤務の保育士が諸事情で辞職する際に、市内他園を紹介するようなシステムを構築してはどうか。

《事務局》現在はそのような取り組みはしていませんが、今後の参考にさせていただきます。

《委員》保育実習で相談や助言をもらう相手の威圧感で、つまり人間関係でやめていく人もいると思う。

《委員》全国でも保育士離職の 1 番の原因が対人関係であるように、過去の小郡市職員を対象に離職に関する調査をおこなったが、やはり 1 番が対人関係だった。2 番目は自己啓発の機会だった。これは、学びたい職員が多いと推察できるため、研修の機会を増やすというのはいい手段ではないかと思う。

また、離職防止について現場の保育士と話す機会があって、加配保育士がついている障がい児が、みんな絵を描いている時間にその子が一人外に出て行った。加配保育士がいるので事故やトラブルにはならないが、その子にとってクラスの一員として考えた時にそれでいいのかとのことだった。そう考えると、インクルーシブ保育がテーマにあったので、この考え方はいいのではないかと思う。

《委員》人材育成の視点も、保育士不足には大切な視点ではないか。高校生の保育実習は耳にするが、中学生ぐらいのこどもたちにもそういう機会を与えてもいいかもしれない。

(3) 「人権・同和保育」の取組について、インクルーシブ保育について

「人権・同和保育」の取組についてパワーポイントにより事務局より説明、インクルーシブ保育について動画視聴

《委員》いい狙いを持って保育をしているということが伝わった。保育所では、多様性、LGBTQ + などについて、職員研修をどのように取り組んでいるか。

《事務局》性の多様性、男の子だから女の子だからという決めつけがないように保育の中で、

人権を大切にする視点を入れています。

《委員》ビルのテナント内にある保育園では、ビル内の人たちと児童がすごく関わっている姿を見たことがある。そのように保育所だけでなく地域の人たちを関わって、社会に開かれた保育課程というものいいのではないかと思う。

(4) 意見交換・質疑応答

(5) その他

《事務局》今回まで事務局から小郡市の状況について説明を行った。今回までの情報を踏まえ次回からはそれぞれの施設の在り方について審議を行っていただく。第3回目、公立幼稚園、公立保育所について、第4回目、公立保育所、第5回目 公立保育所・子育て支援センターについて、第6回目、答申を取りまとめていきたいのでよろしくお願いします。

4 閉会のあいさつ

巡回相談は小学校でも行っている。障がいを持っているかどうかを見つけるということではなく、どの子ども安心して学校で過ごせるようにするためにはどうしたらいいか、将来のためにどうしたらいいかを、保護者、学校の先生、巡回相談の専門職で話し合うことを目的にしている。これも一つのインクルーシブ教育かなと思う。

保育士不足の話があったが、学校も教員不足で働き方改革で負担軽減を進めているが、はき違えると本当はつけなければならない能力をつけるための職員研修が減っていたりして資質能力がどうかと思うところもある。

誰でも通園制度も非常にいい制度とは思いますが、学校もそうだが新しく何か始めると負担が増え、それが嫌で職員が辞めていくというような悪循環にもなりかねないので、少し慎重に考えないといけないと思う。また次も意見交換をしたい。これで第2回小郡市幼児施設審議会を閉会します。